[dõ:k]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059－226－2766
FAX 059－229－0967

N° 76 juin 2006 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

2006年度総会と『パリ祭』7月9日に

村林浩代さんのサロンコンサートも
オペラ・アリアやシャンソンなど

三重日仏協会2006年度総会と恒例の「パリ祭」パーティーを下記のように開催します。この記事をもって会議案内状とさせていただきますので、会員は同封のハガキで出欠を事務局までお知らせください（締め切り：6月25日）。なお近年総会の出席者が少なくさびしい状態が続いていますので、ぜひ多数ご参加のうえ20周年をむかえる協会の活動へのご意見をおきかせくださるようお願いします。

今年は例年の記念講演会のかわりに、津市を中心に活躍しているメゾソプラノの声楽家・村林浩代さんにお願いしてサロンコンサートを開きます。パーティーとともに一般公開（コンサートは無料）としますのでお誘いあわせてご参加ください。

村林浩代さんは松阪市出身、名古屋音楽大学卒。津市で音楽教師として教壇に立つかたわら、三重県新音楽家協会に所属して声楽の研鑽につとめられ、これまで全日本ソリストコンクールに入賞3回、昨年秋には「フランス音楽コンクール」に入賞されました。津市のフランス料理店＜入栄軒＞のオーナーシェフ夫人でもあります。今回は、コンクールで演奏されたグノーとマスネ、「カルメン」の＜ハバネラ＞などフランスオペラの有名なアリアや、みんなが知っているようなシャンソンなども披露していただきます。伴奏は尾崎敦子さん（キーボード）。

○ 7月9日（日）	受付開始	**3：00**
	総会	**3：30**
	コンサート	**4：00**
	パーティー	**5：00**
○ 津・都ホテル		
○ 会　費	**6,000**円 （パーティー参加者のみ）	

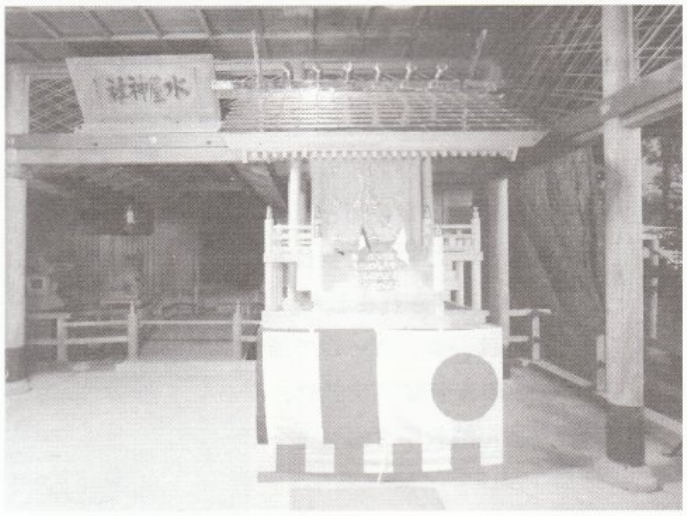
松阪・飯高の

水屋神社 パリ郊外の日本庭園にお社を

ヨーロッパで初めてのお宮さま

松阪市飯高町赤桶にある水屋神社は、奈良・春日大社の流れを汲み千年余の歴史をもつお宮ですが、清流と楠などの巨木に囲まれ荘厳なたたずまいが多くの人をひきつけています。いまこの神社の分社をフランスに建てようという計画がすすみ、すでに小型ながらりっぱな神殿が完成して出発を待つばかりとなっています。

きっかけはブルゴーニュ在住のフランス人で真言宗の僧侶であるダニエル・ビヨー氏（法名・融快）夫妻が昨年末に水屋神社を訪れた際、ここの雰囲気にいたく感動し、また宮司の久保憲一さんとも意気投合、自分のお寺・光明院のそばに水屋神社を分社しようという話になったということで、鈴鹿市の腕利きの宮大工・石井久二さんが腕をふるって伝統的な神殿造りの社を作り上げました。しかしせっかく史上初のヨーロッパでの神社建立なのに、ほとんど人が訪れないブルゴーニュの農村だけではもったいないという考えから、パリに隣接したブーローニュ・ビアンクール市にある有名なアルベール・カーン庭園のなかの「日本庭園」に神殿を安置し、日本古代から伝わる簡素な木造建築の社（やしろ）を芸術的な視点からも多くの人々に見てもらおうというプロジェクトに発展したものです。



渡仏直前の神殿

カーン庭園側も、かつて日本庭園にあった寺社風建物が消失した経緯もあってこの計画には好意的とのことで、いま久保宮司は行政などフランス現地の関係先に働きかけて実現をめざしています。三重日仏協会も日仏文化交流の見地からこの計画の実現をねがい、当該するオードセーヌ県議会のニコラ・サルコジ議長あてに豊田会長名で推薦の書状を送りました。

久保さんは「フランスで禅や武道、茶道などが関心をもたれていますが、神道はさらに歴史の古い日本の伝統文化で、それらに大きな影響を与えてきたもの。この文化をフランスにお伝えしたい。実現したら、この秋にも多くの三重県の人たちと一緒に現地を訪問したい。」と語っています。

幕末の日本をフランス人はどう見たか

3/26 柏木隆雄先生講演会

1994年にお招きして以来、8回目となった三重日仏協会主催の大阪大学教授・柏木隆雄先生の講演会は3月26日、津市のアスト津で開催され、会場いっぱいの40数人の聴衆が参加しました。

今回のテーマは「フランス人の見た幕末日本」。柏木先生は黒船来航にゆれる当時のわが国の政治体制のありようや庶民の暮らし、風俗、文化などを当時日本に来たフランス人たちがどのように受け止めたか、雑誌「世界旅行」のなかの外交官エイメ・ユベール著＜Le Japon＞の引用を中心に、いくつかの著作や興味深い木版画の紹介などもまじえながら解き明かされました。そのなかで、当時の日本人がたいへん礼儀ただしく好意的であったこと、武士・役人らも上層は威張っていて無能だが下へいくほど好感がもてたということなど、フランス人の指摘が印象的でした。

講演会のあと、会場を会員・倉口さんの経営するROSAにうつして先生を囲む懇談会となって歓談が尽きませんでしたが、興に乗られた柏木先生はシャンソン「枯葉」から端唄「槍錆び」まで渋い美声を披露されるなど、趣味の広さもうかがわせました。なお来年の9回目の講演もお約束くださいました。

今年もリヨンから二人の留学生が來県

5/14 四日市で歓迎会

この春から当地に来ているのは、四日市近鉄百貨店で企業研修をしているジェローム君Gerôme DESSAGNEと、三重大学人文学部で政治学を研究しているメラニーさんMélanie FRANÇOISの二人で、いずれもリヨン大学の院生。四日市の会員さんたちのお世話で5月14日（日）夜、レストラン＜エスカルゴ＞で歓迎の夕食会が開かれました。会にはお二人のほかに、ちょうど来日中だった同大学の指導教官ルクレー教授も列席され、三重日仏協会の新会員をふくむ約20人が参加して楽しい宴となりました。

INFOMATIONS

日仏会館・2006年春の日仏文化講座

＜日仏戦後60年の社会変容＞

5月17日、加藤周一氏の「戦後日本におけるフランス」で始まった興味深いこの講座の今後のスケジュールを紹介いたします。

6月7日（水）　「フランスと日本の戦後社会…民事法の視点を踏まえて」
金山直樹（慶応大学教授）

6月30日（金）　「若い日本と老いたヨーロッパ？」池澤夏樹（作家）

いずれも東京恵比寿の日仏会館で、午後6時から、会費：一般千円。
問い合わせ／03−5424−1141

第22回 日本アマチュア・シャンソンコンクール全国大会

6月17日（土）　午後5時開演
神戸市の神戸文化ホール・中ホール
入場料：4,000円
問い合わせ／㈶神戸市民文化振興財団　078−351−3597

パティスリー ＜ラ・パルム・ドール＞ が6月末オープン

開店5周年を迎えた津市一身田大古曽のフランス料理レストラン＜ラ・パルム・ドール＞（オーナー・シェフ後藤雅司さん＝三重日仏協会会員）がこのほど津市の橋南地区にスイーツ専門のパティスリー＜ラ・パルム・ドール＞をオープンさせることになりました。

開店日は6月28日（水）で、28日から30日まではオープニングフェアとして、また7月中もいろいろな記念のサービスがあるそうです。

◆津市南中央22-16 メゾンタキノビル1F　059−229−7890
なおレストランは 059−232−8500

今年度の新しい会員紹介（ご入会順）

青木幸美さん（津市・皇學館大学）
和泉浩之さん（四日市市・ＪＥＴＲＯ）
石井久二さん（鈴鹿市）
久保憲一さん（松阪市・水屋神社）
宮崎和子さん（津市）
脇田礼子さん（津市）
久野充敬さん（津市・クノミチタカ写真事務所）
古川佐喜子さん（松阪市）